



バンコク便り



1.はじめに

9月のバンコクは年間で最も降水量が多く、スクールに見舞われることもあるため折り畳み傘が手放せない時期でもあります。朝晩は若干涼しくなることもありますが、日中は30度を超える日が相変わらず続いています。10月中旬からはほとんど降雨のない過ごしやすい時節（乾季）に入るため、観光やイベント等で旅行者が増加するベストシーズンとなります。それでは長く続いた雨季も終盤をむかえる当地バンコクよりお伝えいたします。

2 当地ビジネス情報

◇日タイ修好 130 周年 - 日本の大規模経済ミッションの来訪及び東部経済回廊（EEC）について

今月9月11日～13日にかけて、日本より世耕弘成経産相を筆頭に過去最大規模という約600人の経済視察団が来タイし、プラユット首相への表敬訪問をはじめ最新の経済政策に関するセミナーの開催、現在タイ政府が集中的にインフラ投資を行う東部経済回廊（**Eastern Economics Corridor** 以下 EEC）の視察等を行いました。

本事業は、日本-タイ間で正式な外交関係が開始されてから今年が130周年という節目の年にあたることから、この機会にタイで新たに生まれつつあるビジネスチャンスをとらえ、両国経済交流の一層の拡大を目指すものとして、両国政府協力の下、実施されたものです。中でも視察の目玉となる EEC は、更なる経済発展を目指すタイ政府が2015年に打ち出した新政策「タイランド4.0」（注1）を進める中で、重要な投資受入地域としてバンコク東部の3県（チャチュンサオ、チョンブリー、ラヨー）を指定したもので、タイ投資委員会（BOI）の新投資政策でも同地域向けの高度技術を用いる重点産業やインフラ開発等の投資を奨励業種として法人税の減免等、投資促進に向けた種々の手厚い恩典を発表しています。

自動車産業の集積が著しい東部地区のチョンブリー県は「東洋のデトロイト」とも呼ばれていますが、タイ政府は今後5年間で、1兆5,000億バーツ（約4兆8,000億円）の予算を投じ当該地区の空港・港湾の拡張、高速鉄道建設等のインフラ整備を行うと表明しており、タイはかかる EEC の進展を通じ、ASEAN 経済圏のハブとして更なる発展が期待されます。

注1: タイランド4.0 …タイが2036年までの高所得国入りを目指す長期的な経済成長戦略。産業の高付加価値化と競争力強化を目的としており、次世代自動車工業、スマート・エレクトロニクス、医療ツーリズム、農業・バイオテクノロジー、未来食品、ロボット産業、航空・ロジスティクス、バイオ燃料・バイオ科学、デジタル産業、医療ハブの計10産業を投資奨励対象産業としています。

3.現地トピックス

9月1日～9月3日の3日間でバンコク市内にて、ジャパンエキスポ（JAPAN EXPO IN THAILAND 2017）が開催されました。今回で3回目となる本イベントは来場者数約100,000人（2015年約75,000人、2016年約92,000人）を数え、日本の文化、観光、食、モノ、留学、就職を大々的に発信する等、日タイ関係の進展を目的として実施されました。オープニングセレモニーは、日本の著名アイドルの姉妹グループ「BNK48」等が出演していたこともあり、テレビカメラが何台も入り、タイの若者を中心にすごい盛り上がりを見せていました。また東北6市合同での観光案内ブースや各市の祭り紹介コーナー等もあり、山形からはメインステージにて花笠の演舞も行われました。フードコーナーをコーディネートした当地コンサルの話では「来場者数も多く、タイでのニーズを探るために今回だけ出展した飲食店もある」との話もあり、本イベントは様々な分野での活用が見込めるようです。また開場前には行列ができ、混雑時は歩くのも大変というくらい人が多く、日本への注目度、関心を非常に強く感じることができました。



花笠舞踊団の皆さま



東北6市連合ブース

【本件に関する連絡先】 海外業務部 石井、榎 023-626-9050
バンコク駐在（カシコン銀行ジャパンチームトレーニー） 齋藤 +66-(0)6-3206-2823